

# 説明的文章の読解の学習における主体的な読みを育てるための、 個に応じた指導法の研究

～ティーム・ティーチングによる指導を通して～

白河市立白河第二中学校教諭 後藤 さとみ

## I 研究の趣旨

説明的文章の学習において、学習の初めの段階で喚起された学習意欲が、学習が進むにつれて次第に減退してしまうという傾向が見受けられる。このことは、教材の内容的なおもしろさや新鮮さによって喚起された学習意欲が、教師が設定した受け身の学習を重ねていくことにより、次第に減退してしまうということを物語っているように思われる。

そこで、生徒の学習意欲を持続させていくための基礎となる思考力・判断力・表現力などの“学ぶ力”を鍛え、知識・理解・技能の定着を図っていくための指導計画のありかたや、個に応じた指導方法を探りながら、生徒の主体的な読みの態度を育てていくことをねらい、上記のように研究主題を設定した。

## II 研究仮説

### 1 仮説

説明的文章の読解の学習において、次のような手立てを講じれば、生徒の個性が活かされ、学習意欲が持続するとともに主体的な読みの力が身につくであろう。

- (1) 生徒自らが学習計画を立て、学習コースを選択する場の設定。
- (2) コース別グループ学習による相互学習の場の設定と、ティーム・ティーチングによる個別指導の充実。

### 2 仮説に関わる概念規定

(1) 「生徒の個性が活かされ」とは  
生徒自らが、自分の実態や興味・関心をふまえて学習計画を立てたり、一人学習を生かしながらグループでの話し合いをしたりすることにより、課題についての考えを練りあげていくことができるようにすること。

(2) 「学習計画を立てる場の設定」とは  
生徒が学習計画を作成する段階において、ティーム・ティーチングにより個に応じた指導を行う。それによって生徒が学習の見通しを持ち意欲的に学習に取り組むことができるようにすること。

(3) 「コース別グループ学習」とは  
生徒の学習計画に基づき複数の学習コースを準備し、自分に合ったコースを選択させる。さらに小グループを組ませ、互いに考えを交換させることにより、課題についての考えを深め合うことができるようにすること。

〈ティーム・ティーチングの指導〉

- 生徒の実態を把握し、個別指導を通して一人一人の生徒が自分に適した学習コースを選択することができるように援助を行う。
- コース別グループ学習における学習状況の多様化に対応するために、それぞれのコースを分担して個別指導に当たる。また、一人一人の生徒のつまずきの傾向を把握し、具体的な援助を行う。